

令和7年度 研究推進計画

教務部

1 研究主題

他者と協働し、課題を主体的に解決しようとする児童の育成
～地域とともに共創する「神すぎる未来プロジェクト」の創造を通して～

2 主題設定の理由

本校では昨年度、「子どもを主語とした算数科の授業」の創造において研究を行ってきた。子どもを主語にした学びの実現のためには、本校で作成した単元構想シートの作成を通して、①授業を単元のまとまりで構想すること ②子どもが働かせる数学的な見方・考え方を明確にすることが重要であることが分かった。加えて、学びの自己決定を子どもに委ねる場面を設定することを全員で意識して授業を創ってきた。また、「三次市読解力向上事業」での学びを活かし、児童が「つまずき」のような言葉の意味を説明したり、自分の言葉で語らせたり、グラフや図と、文章や友達の考えを結びつけられるよう発問をしたりすることで、児童の汎用的読解力を育成してきた。その結果、三次市学力到達度調査では、4 学年中全学年が全国平均値よりも上回ることができ、一定の成果がみられた。そこで、今年度は昨年度の研究をさらに広げ、他教科においても子どもを主語とする授業について研究していきたいと考える。

本校は、今年度コミュニティスクールが本格実施される。学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、社会との連携及び協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

また、初等中等教育における教育課程の基準等のあり方についての中央教育審議会諮問において顕在化している課題として挙げられている、「主体的に学びに向かうことができていないこと」や、「習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること」、「概念としての知識の習得や深い意味理解をすること」、「自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること」、さらに、「社会参画の意識が低いこと」は、本校の課題と一致する。

そこで、総合的な学習の時間の授業を中心に据え、研究主題を『他者と協働し、課題を主体的に解決しようとする児童の育成』を研究主題とし、副題を「地域とともに共創する「神すぎる未来プロジェクト」の創造を通して」と設定する。

一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓ひらき、持続可能な社会の創り手となるような教育を実現していく。

なお、学習指導要領解説総合的な学習の時間編を参考に、「他者と協働し」とは、「自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする」、「課題を主体的に解決する」とは、「自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとすること」と捉え、研究を進めていく。

3 研究内容

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 地域の教育資源を活かした単元開発② カリキュラム・マネジメントの推進 |
|---|

①地域の教育資源を活かした単元開発

- ・本中学校区のつきたい資質・能力である、主体性・表現力・協働性が発揮された姿について、教師・児童・保護者・地域住民で具体的に設定し、育成を目指した単元開発を行う。
- ・横断的・総合的な学習として、探究的な見方・考え方を働かせ、学習の質の高まりが期待できる、地域の人々の暮らし、伝統と文化など、神杉地域の特色に応じた課題を設定する。
- ・児童のこれまでの考えとのズレや憧れを感じ、課題を自分事と捉えられるような課題設定を行う。
- ・職員の異動があっても地域との連携が持続可能となるよう、全学年の探究課題と、地域との連携についての地域連携シートを作成する。

②カリキュラム・マネジメントの推進

- ・各教科等で身に付ける資質・能力について十分に把握し、総合的な学習の時間において、各教科等で身に付けた資質・能力が存分に活用・発揮できるよう、各教科と総合的な学習の時間の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントを推進する。
- ・カリキュラム・マネジメントシートを作成し、単元構成、地域との連携、各教科との関連性を整理したい。

4 検証方法

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 全国学力・学習状況調査 質問調査の項目を用いた児童アンケート(3~6年)② 記述式の児童アンケート③ 職員アンケート |
|--|

5 検証の指標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 児童アンケート肯定的な評価の割合が 80%以上② 職員アンケート肯定的な評価の割合が 80%以上 |
|---|

6 研究方法

(1) 児童の実態把握と分析

- ・児童の実態把握と意識調査を行う。(4月)

(2) 理論研修

- ・総合的な学習の時間における理論研修を行う。(4月～5月)

(3) ペア学年による授業実践・考察

- ・3つのグループに分かれて、常時、授業公開、事後研修を行う。7月と12月には実践交流会を行い、効果的な取り組みについて全体で共有する。

(4) 研究授業の実施と分析・考察

- ・研修内容の視点に沿った研究授業を実施し、研修を深め、研究の有効性を検証していく。(6月～11月)

(5) 研究のまとめと来年度の研究推進の計画立案 (1月～2月)

- ・児童アンケートによる児童の実態の調査と職員アンケートにより、研究の成果と課題をまとめる。

7 研修計画

月	内容
4月	・研究の概要の共有 ・育成を目指す資質・能力の検討・共有
5月	・理論研修(探究的な学習の質的向上について)
6月	・授業実践交流会(ペア学年による)
7・8月	・CS会議 ・カリキュラム・マネジメントシートの作成・改善
9・10月	・授業実践を通じた検証(低学年・中学年・高学年)
11月	・学びの成果を地域へ発信(ふるさと祭り)
12月	・授業実践交流会 ・児童アンケート
1月	・CS会議(育成を目指す資質・能力について・ 来年度の年間計画について)
2月	・一年間の取組の評価(成果と課題) ・カリキュラム・マネジメントシートの作成・改善
3月	・次年度研究推進計画立案